

資料3 「春をさがそう」(国語4・理科2)の展開案

| 過程 | 本時のねらい | 時間 | 主な学習活動 |
|--------------|--|----|---|
| 春さがし | ○野外で春のおとずれを感じさせる草・木や虫などのようすを探しながら、虫などが現れてきたことに気づく。 | 2 | ○どんなことから「春が来た」ということがわかるか話合う。 ○校庭や学校のまわりから、春をさがす。 ○さがした春をスケッチブックに絵やこたばあであらわす。 |
| みつけた春をみつけた春を | ○見付けた春を発表し合い、場所を話合う。 | 1 | ○「みつけた春」を発表する。 ○絵枝岐の春を話合う。 ・みつけたもの・場所 ○さらに新しく気づいた春を絵にかく。 ・友達の発表から気づいたことを書きたす。 |
| 「春」を文に書く | ○見付けた事柄の「書き方」を知り、見付けた春を書くことができる。 | 1 | ○教材文を読んで、書き方を話合う。 ・いつ、どこで、何をしているのか。 ・全文を読む。 ○よし子さんの文章を読んでどのように書くか考える。 ○絵を手がかりにして、短い文章に書く(二文) |
| 絵・作文する | ○新しい観点(五感)から春を見付け、絵と作文にかくことができる。 | 1 | ○自分の見付けた春と、他の人のみつけたことを比べる。 ・どんな場所で、どんな春をみつけたか。 ○P13 L4以下を読んで、いろいろ春の探し方について考える。 ○自分の文章についてももう一度考え、新しい観点から春をさがし、絵作文する。 |
| みつけた春の発表会 | ○お互いの書いたものを発表し合い、新しく見付けた春に気付くことができる。 | 1 | ○前の時間に書いた文章を発表し合って話合う。 ・(見付け方・書き方)について話合う。 ・新しい春がみつかったか。 ・体のどこをつかって見つけたか。 ・発表態度は、どうか。 |

イ 自然が身近にあり、地域性からも実態にあった単元といえる。

ウ 自然に働きかける(体験活動や五感を通ずる活動、自主的な活動)を中心とする授業が展開できた。

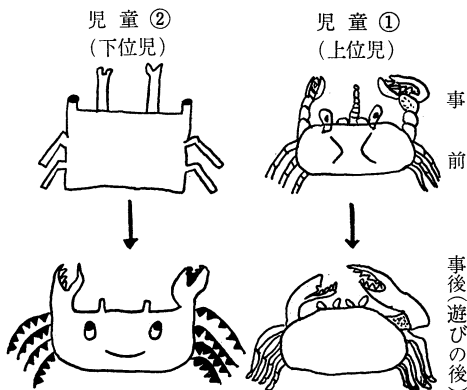
エ 観察(理科)と、書くことをみつけた(国語科)が一体の活動として単元が展開でき、各教科の目標を効果的に達成することができた。

オ ひとりひとりの児童が、「春をさがす」という課題にむかって、

・書きたい題材が容易。
・発見したことを、絵や文に興味や関心をもって表現する。
・自分なりの春を見、聞き、触れるなどして 春の感触をとらえていた。この体験によって、ものを見る目、感じる心を養うことができた。

生き生きと取り組み、絵や文に表現することにより、興味・関心を持續することができた。

(評価例)



事前 事後(遊びの後)

実践例2 「理科と国語科と図画工作科の合科的指導の実践」

- ① 「さわガニやザリガニと遊ぶ」――単元構成の立場(略)
- ② 合科的単元目標の設定の進め方(理科目標―いろいろなどうぶつ―)ハザリガニと遊ぶ

草むら、水中などの動物を探したり工夫したり飼ったりさせながら、それらの食べ物・住んでいる場所・動きなどに違いがあることに気づかせる。

(国語科目標―よく見て―)

対象となる生き物の様子をよくみて、みつけたこと、気づいたことを整理し、順序を整えてよくわかるように書いたり話したりできるようにする。

(図画工作科―たのしかったこと―) 自分の生活体験の中から楽しかった様子を思い出し、組み合わせを考えて絵をかくことができる。

③ 単元の目標

ア さわガニやザリガニと遊びながら動きや、からだのつくりのおもしろさや巧みさなどの特徴に気づく。

イ さわガニやザリガニの様子をよく見て、見つけたこと、気づいたことを整理し、順序を整えて、書いたり、話したりできる。

ウ さわガニやザリガニを飼って、動きや食性などの特徴に気づく。

エ さわガニやザリガニ遊びの中から、楽しかった様子を考えて絵にかくことができる。

④ 指導計画(六時間)

第一次 さわガニやザリガニと遊ぶ ―二時間

(1) さわガニやザリガニと遊ぶ(1) すみか作り……………(1)

第二次 さわガニやザリガニの作文を書こう。――二時間

第三次 さわガニやザリガニの作文を書こう。――二時間